



Title	幕末期辺境における農業と社会 : 薩摩藩大隅国高山郷郷士守屋家の研究
Author(s)	秀村, 選三
Citation	大阪大学, 1970, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29967
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【 2 】

氏名・(本籍)	ひで 秀 村 選 三
学位の種類	経 済 学 博 士
学位記番号	第 1 9 0 4 号
学位授与の日付	昭 和 4 5 年 3 月 5 日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	幕末期辺境における農業と社会—薩摩藩大隅国高山郷 郷士守屋家の研究—
論文審査委員	(主査) 教 授 宮 本 又 次 (副査) 教 授 内 海 洋 一 教 授 作 道 洋 太 郎

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は幕末期の薩摩藩大隅国高山郷^{こうやま}の上層郷士守屋家の微視的・集約的研究である。一時期の一個の家の社会経済生活を集中的に追及・考察したものであるが、しかし、たんに一個の家に好事家的興味をもったものではない。従来研究が未開拓であり、日本経済史の通説が貫徹しがたいといわれた西南辺境領国、ことに薩摩藩の特殊構造を探るために、焦点を一個の家にしぼり、この地域の具体的諸問題に取り組んだものである。

第1編は序論で、幕末期の西南辺境型領国の特質を考察し、その典型として薩摩藩をとらえ、藩体制の支柱たる郷士制を取りあげ、また労働史研究の観点からも上層郷士＝地主の労働組織の研究が必要であることを指摘する。

第2編は守屋家の農業と労働組織に関する諸章より成っている。大隅国高山郷と高山郷士の大要、守屋家の系譜や土地支配、守屋家の性格をうかがい、とくに幕末期における手作の農業を詳細に考察する。また年間の労働のあり方や労働組織の特質をうかがい、その中核をなす下人を解明する。下人については諸類型があるが、最も特徴的な永代下人と村落生活・土地開発の関連についても考察した。

第3編は守屋家をめぐる諸問題を取りあげたもので、次の三つに大別される。第1は守屋家と守屋家をめぐる家々との関係を考察、第2は守屋家の所在せる高山郷につき二、三の問題を取りあげ、藩の郷村支配を考察せるもの、第3は薩摩藩地域の下人について中世まで遡り考察し、近世の下人の歴史的背景を探ったものである。

以上の如く守屋家という一個の家の微視的研究を通して、西南辺境地域の社会経済構造を特徴的に解明しようと試みたのである。

論文の審査結果の要旨

本論文は、日本経済史の通説が貫徹し難いといわれた西南辺境領国、ことに薩摩藩の基礎構造を探るため、焦点を大隅国高山郷という一つの郷、守屋家という一個の上層郷士の家にしぼり考察したものである。

まず西南辺境領国の特質を模索し、郷士制と地主制との関連を説き、上層郷士の研究の重要性を指摘する。ついで守屋家の諸性格を考察し、とくに農業と労働組織、下人の存在形態を詳細に分析する。また守屋家をめぐる家と家の生活諸関連をうかがい、さらに高山郷について藩の郷村支配の貫徹の限界を考察し、上層郷士の歴史的な位置づけを試みている。

いわば西南辺境の社会経済的特質、わが国辺境村落の上層格の家の社会経済的特質を、たんに一般的・図式的でなく、個性の中に体现された全体を追求する方法で考察したユニークな研究である。

経済学博士の学位を授与されるに十分値するものと認める。